

令和 7 年 12 月 15 日 開 会

令和 7 年度第 9 回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

令和7年度 第9回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和7年12月15日(月)	教 育 長 明 石 浩 久	教育総務課長 小 池 康 之
午後2時	教育委員 吉 富 和 夫	学校教育課長 川 崎 史 明
↓		
午後3時20分	教育委員 葛 迫 幸 平	社会教育課 新 屋 亜 矢
		主幹兼社会教育係長
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	
	教育委員 福 里 由 加	

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、令和7年度第9回教育委員会定例会を開会した。

2 前回会議録の承認について

令和7年度第8回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 議 事

報告第 26 号 令和7年度垂水市一般会計補正予算(第5号)案についての市長への意見
申出について(非公開)

議案第 14 号 令和8年度教育に関する予算についての意見の申出について

4 その他

5 動議の討論等

6 委員並びに教育長及び課長報告

7 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
報告第26号 令和7年度垂水市一般会計補正予算(第5号)案についての市長への意見申出について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づき、市長から教育委員会の意見を求められたが、急施を要したため、教育長の臨時代理により意見の申出を行ったことを報告するもの。		承認
議案第 14 号 令和8年度教育に関する予算についての意見の申出について	令和 8 年度教育に関する予算について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定により、市長に意見を申し述べるため、その意見の内容について、会議に付するもの。	特記事項なし	原案可決

議 事 内 容 等

3 議 事	<p>報告第 26 号 令和7年度垂水市一般会計補正予算(第5号)案についての市長への意見申出について(非公開)</p> <p>(承認)</p> <p>議案第 14 号 令和8年度教育に関する予算についての意見の申出について (資料に基づき説明)</p> <p>(承認)</p>
教育総務課長	

<p>4 その他</p> <p>教育総務課長</p> <p>学校教育課長</p> <p>5 動議の討論等</p> <p>田之上委員</p> <p>学校教育課長</p> <p>福里委員</p>	<p>学校のあり方検討委員会の状況について (資料に沿って報告)</p> <p>質疑等なし</p> <p>令和7年度学校訪問校における課題と解決策について (資料に沿って報告)</p> <p>質疑等なし</p> <p>保護者の方からのお話ですが、学校からの連絡について、ペーパーレスでスマホ等による連絡があるとのことですが、保護者が見逃してしまうことがあるようです。保護者の方も見なかったのがよくなかったとおっしゃっていたのですが、連絡を見落として英検の申込みができなかった方もおられたようです。また、学校に着いてから、PTA会議の開催日に不安になられる方もおられるようです。例えば、前日か、1～2日前に、子供たちに「明日PTAだからね、お母さんたちに伝えてね。」等、声掛け等があったらいいのかなと感じたところでした。</p> <p>連絡を届けるということは非常に大事なことでと考えております。 以前は紙でしたが、子供にとっては、渡しそびれ、届かないということもあったことから、基本的には、保護者が全員登録をいただいている、まなびポケットというツールで、一括管理して、全ての保護者に届くようにしているところです。 しかしながら、毎日、気にして見るものではないかもしれませんが、大事連絡につきまは、再度、連絡がいくように、例えば、学級通信というのがありますので、一言書いてもらうなど、お知らせの方法を工夫する必要があるのかなと、思ったところでございます。学校にも指導していきたいと思えます。</p> <p>まなびポケットですが、中学校では、英検もまなびポケットで申込むという連絡がありました。英検の申込書の記入が大変で、まなびポケットでの申込がよかったなという方が結構いらっしゃいました。PTAに関しては、週報でありましたが、紙だと、子供が渡すのを忘れたことがありました。まなびポケットは、連絡に気付きに良かったのですが、最近は通知が届くようになり、また、回答しないといけないもの、重要なものが示されており、すごく見やすいなと思ったところです。 それから、インフルエンザ等のことですが、流行ってから連絡が来るんですが、詳しいことは言えないと思うのですが、これくらい発生していますよというのがあれば、保護者も警戒しマスク等を子供に促し予防することで、感染の拡大を防げるのかと思います。また、感染していない子供も学校を休まないといけなくなり、児童クラブにも行けなくなるので、仕事の調整もでてくるなどあるので早めに連絡いただけるのいいかと思います。</p>
---	--

学校教育課長	<p>感染症に関しては、慎重に判断をします。5～6人休みがでた場合に、診断がインフルエンザと確定している場合、発熱だけでは分かりにくいところもあります。学校では、数日前からの様子をきちんと把握し、校医や教育委員会と連携を図りながら、学級閉鎖については判断をしています。もしそれがインフルエンザじゃなく、広がる可能性が低いところに学級閉鎖をしてしまうと、勤務されている保護者の方もいらっしゃいますので、いろいろ考慮しながら行っておりますので、多少遅くなってしまうことは、申し訳ないなと思うところです。学校や子供たちの状態について、丁寧にお知らせすることは必要だと思うところです。</p>
教育長	<p>まずは校医に相談し助言をいただき、教育委員会と確認を取りながら判断することなので、どうしても閉鎖については遅くなりますが、流行の兆しなどは、すぐにお知らせできると思うので、改善していけたらと思います。</p>
6 委員並びに教育長及び課長報告	<p>委員並びに教育長及び課長報告に入る。</p>
吉富委員	<p>11月26日の松ヶ崎小学校の防災学習についての研究公開を参観いたしました。協和小学校、牛根小学校と3校の5、6年生がオンラインで遠隔合同授業を行いました。6月に3校の集合学習で県の防災研修センターの方の講話を聞き、火山の仕組みについての校外学習を実施されました。その後も遠隔合同授業を行い、桜島の火山災害の特性を調査して、学校間でお互いの意見を発表し合いながら自分の考えをまとめ自分の防災プランを作成していく全30時間の単元の学習内容でした。研究公開の本時では、各校の防災プランをもとに、3校で交流する活動でした。授業の中では、モニターを通してお互いの意見を交流し合い、良い点や課題点を述べ合っていました。遠隔合同授業を通して、私がよいと感じたのは、少人数の学級において、他校の同級生の意見や考え方を聞くことができ、お互いの知識が交流できること、そして、お互いの人柄の交流が図られているということでした。それぞれの学校で過ごす日々の生活に、他校の児童に思いをはせ、良好な関係を築くことで、児童一人一人の人格が豊かに形成できることを感じました。この遠隔授業の構築を含め、研究授業を实践された3校の先生方に感謝いたします。垂水市のGIGAスクール構想による学習が着実に進んでいることを実感いたしました。</p> <p>その他、12月7日に垂水サッカースポーツ少年団の育成会主催のちびっこサッカーフェスティバルが開催され、市内の幼稚園生、保育園生が参加しました。小学6年生のキャプテンが、開閉会式では、もう大人顔負けの立派な挨拶を行って、大変頼もしく思いました。そして小学生の団員が、園児の誘導や試合の世話をしている姿にも、大変好感を覚えました。また、育成会の方々も精力的に大会の運営に携わっておられました。そこにはサッカースポーツを通して、親子や世代間の交流、ともに鍛錬してゆく姿を伺うことができ、清々しいひとときを過ごさせていただきました。各スポーツにおいても垂水市の大人、子供ともに意識が高く、良い人材育成の場となっていると思いました。</p>
葛迫委員	<p>第11回和田英作・香苗記念絵画コンクールが、12月7日から14日まで開催されましたので搬入から、審査、展示、発表、開場式・授賞式、新聞発表、搬出に</p>

	<p>ついて報告いたします。搬入は、和田香苗部門が10月30日、和田英作部門は11月16日、両部門とも、午前10時から午後4時までの搬入でした。出品点数は、香苗部門の市内の未就学児小中学生で287点、英作部門では、県外や高校生を中心に89点、合計376点の応募がありました。審査につきましては11月の18日、私、五反田邦夫先生、宍野寛先生の3名。南日本美術展の委嘱作家の3人で審査いたしました。審査は午前中に英作部門を行い、今年は特に、宮崎県からと、松陽高校の生徒たちの応募が目立ちました。入選、賞候補、選外を決めながら進めていき、賞候補の中から、特別賞、審査員長賞、垂水市教育長賞、垂水市長賞、そして、和田英作賞が決まっていきました。</p> <p>和田栄作賞は、垂水中央中学校で美術の先生をしていた長崎先生が、垂水市長賞には、今年、垂水中央中学校を卒業し、現在、松陽高校の前田陽菜さんが、垂水市教育長賞には、垂水南中で35年ほど前に教壇に立たれていた鹿島義幸さん、招待者部門の審査員長賞は、垂水高校の美術教諭の犬童二郎さんが選ばれ、垂水に関係の深い先生たちの受賞に喜びにわいたところです。入選作品55点、受賞作品14点、招待作品10点、合計79点を展示することとしました。午後からは、香苗部門の審査に入り、未就学児、小学校1・2年生、小学校3・4年生、小学校5・6年生、中学生の5つの部門から、和田香苗賞1点、垂水市長賞1点、垂水市教育長賞1点、審査員長賞3点を選ぶため、各部門から審査員が1人2点を選出し6点が選ばれ、和田香苗賞、垂水市長賞、垂水市教育長賞、審査員長賞を選出しました。和田香苗賞には、さざなみ保育園の林美玲さん、新城小学校の濱田ひみかさん、新城小学校の一松譲之進さん、協和小学校の深見小夏さん、垂水中央中学校の野村煌さんが選ばれ、30点を展示することとしました。学校賞には、近年、技術向上を感じさせ、今回のコンクールでも技術の向上が見えたことで垂水中央中学校が受賞しました。</p> <p>審査発表は11月21日に、ホームページに加え、出品者全員に講評と入落受賞を書面で、各園と各学校にも通知をしたところです。展示は、12月4日に和田香苗部門を、12月5日に和田英作部門を展示しました。開場式・授賞式は12月7日9時30分から11時まで開催しました。その後、和田英作部門のギャラリートークを開催し、一般部門の出品者全員に講評を通知したことで、個人的なギャラリートークではなく、絵画の有り様や作品構成の違いや共通点を、2～3点の受賞作品で説明したところです。新聞発表については、最高賞の受賞者の喜び、そして受賞者名簿一覧、2日間、2回記事が掲載されました。来場者は8日間で350名、初日と最後は結構来てましたので、もう少し増えてるのかなと思っております昨日搬出し、本日、午前中、県外作品を梱包し送ったところです。18日には鹿児島市への画材店への配送を行い、すべての工程が終わる予定です。</p> <p>今後、今回の反省など、担当職員と打ち合わせする予定です。</p>
福里委員	<p>11月26日に行われた松ヶ崎小学校の研究授業に参加させていただきました。防災についての研究授業を参観するのは初めてだったので、楽しみにしていました。協和小学校と牛根小学校の遠隔合同授業でした。子供たちはたくさんの方々がいる中で、自分の意見を堂々と発表していて立派だなと感じました。</p> <p>また、協和小学校ではAIを使って、物語を作っていて、年数を重ねて防災について学んだことが子供たちにとって、大人になっても役立つだろうと感じました。12月5日は中央中学校の授業参観とPTAでした。授業参観は2クラスで72名いるんですが、30名ほどの方が来られていました。PTAには10名程の方が参加されていました。</p>

田之上委員	<p>読書の秋に、今年も協和小学校と垂水小学校でお話し会をさせていただきました。協和小学校では児童数が少ないためか、子供たちがおとなしくて、とてもよく聞いてくれているなど感じました。協和小学校では、この日、欠席児童が1名おりましたが教頭先生がオンラインでつなげてくださって、全員の子供たちにお話し会を聞いてもらうことができました。垂水小学校は2学年ずつに分かれての実施でした。元気な子供たちも多いんですが、よく聞いてくれたと思います。3匹の子豚の手遊びをしたときは、先生方も一緒にしてくださって、楽しんでくださったようでした。2校とも、最後にしりとりのお話の本を選びました。子供たちも、絵を見て元気な声でしりとりをしてくれて、楽しく終わることができました。しりとりをすると、子供たちの語彙力や、周りの環境などにより、子供たちの選ぶ言葉で違いがあり、とても面白いなと思っていますところですよ。</p> <p>松ヶ崎小学校の防災教育の研究公開授業に参加させていただきました。多くの先生方が興味深く参観されていました。特に松ヶ崎小学校、牛根小学校、協和小学校を結んでの授業は、子供たちのやりとりの様子を見て、日頃から機器の活用慣れていることがよくわかりました。室内に掲示してある、学びの過程の様子も見応えがあるもので、機器の活用が子供たちの思考や工夫を深めていることを感じさせるものでした。また隣の部屋でも3校がつながっている状況を見ることができたのもよかったと思いました。</p> <p>また、藤吉翁グランプリコンサートを聞きに行きました。生徒さんたちの日頃からの成果を堪能させていただきました。多くの市民の方がおいでになり生の音楽を楽しまれたこともうれしいことでした。</p>
教育長	<p>遠隔合同授業は、これまでの取組が活かされて、松ヶ崎小学校の5・6年生の担任の先生は、採用試験に合格したばかりで、若くまだキャリアが少ないところですが、一生懸命でそれがまた形になってよかったなと思っていますところですよ。</p> <p>11月7日から21日にかけて行いました、垂水市立学校のあり方検討委員会地区報告会について、少し報告をさせていただきます。境校区も含めた8校区でそれぞれ開催し、これまでの経緯、検討委員会の進め方、児童保護者アンケート調査結果の報告、そして、地域の皆様のご意見を伺う機会といたしました。</p> <p>どこの地域も、今後の児童数の見通しを説明すると、ここ2～3年の出生数は30人台ということに、一応に驚かれていたようでした。</p> <p>また保護者アンケートでは、統合しないほうがよいという方も1割弱で、あとは、1校から3校に統合したほうがよいという方が、全体の4分の3を占めていたことを報告いたしました。境校区の報告会の中で保護者から小学校を残してもらいたいというご意見が、1、2件ございました。それでも、境の中でも、多くは、「もう子供の減少は止められないため統合すべきだ。」というご意見でした。境以外の7校区におきましても、「小学校の統合はやむを得ない。」との声が多く、他にも、「児童生徒・保護者の声を第一に考えて進めていただきたい。」とか、「学年が1人から2人になるという状況はもう看過できない。」というようなこと、「統合を少しでも早く進めてほしい。」という、ご意見もたくさんいただきました。新城地区、柊原地区、あるいは牛根地区でも、そこで、1校にならないかという話も、どちらも出ましたけれども、それでも少人数であるということ、学校をまとめる場所についても話がまとまらないだろうという話になりました。思っていたよりも、進めてほしいという意見が多い地区報告会となりました。中には、児童数の多い学校に通学させるために、中央地区に引っ越してしまった家族もあると。統合が決まれば、大きな学校に通えるという前提で、地域に留まる人も出てくるんじゃないかというようなご意見もあ</p>

<p>教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長</p> <p>7 閉 会</p>	<p>りました。</p> <p>松ヶ崎地区、牛根地区の方は再編を急いでほしいという声が、とても多くて、教育委員会といたしましても、大野小・中学校の例を挙げて、校区、それから保護者の意見がまとまり、要望書という形で出していただければ、そういうことも進められますという話をしました。何人かが出てしまうケースでは、校区外通学となりますので、保護者の責任で送迎はしていただきますが、校区として、手をあげてそうしてくれということであれば、学校を閉校して、通学手段も十分検討することも説明いたしました。もうすでに牛根小学校、松ヶ崎小学校は今月、保護者を集めての話し合いとかも開かれているようでした。校区や保護者の意見を大事にしながら、進めていけたらと思っているところです。</p> <p>今後の要望として、スクールバスの運行の配慮、地域行事の継承、あと統合までの間、遠隔合同授業もよいが、対面での小学生同士の交流をしてほしいといったような声をいただいたところです。</p> <p>明日の第3回の検討委員会で報告をして、中間取りまとめ作成の参考としていただく予定としております。</p> <p>11 月 11 日から 12 月 15 日までの主な行事等について各課長が報告。併せて、12 月 16 日から1月9日までの行事予定についてお知らせした。</p>
--	---